

# 多摩ら・び

No. 75

定価  
500円(税込)

特集

# すまう

程よい距離感でゆるやかに  
つながりあってすむ

受け継ぐ伝統、好きな居場所づくり  
すまいの形 暮らしのカタチ

多摩の森から人へ、木を活かす  
東京の木とすまう

既存のエネルギーに頼らない暮らし  
すまいの知恵



上左/コモンスペースで遊ぶ子どもたち。やさしく、時には厳しく、いつもみんなが子どもたちを見守っています。



上右/小さな命は、パパとママだけでなく、たくさんのおばあちゃんに見守られてスクスク育ちます。下左/量が敷かれたコモンロフト。子どもたちの遊び場に、大人たちのつらぎの場に、ゲストルームに…。時に応じて姿を変えます。下右/屋上菜園では手塩にかけた季節の野菜が生き生きと育ち、収穫の時を迎えると、コモンミールに並びます。

## コレクティブハウジングとは

既成の家族概念、福祉概念、住宅概念にとらわれず、人と人との新しい関わり方をつくりながら、より自由に、楽しく、安心安全にすみ続ける暮らし方。それぞれが独立した専用の住居とみんなで使ういくつかの共用スペースを持ち、生活の一部を共同化する合理的な住まいです。自分や家族の生活は自立しつつも、血縁にこだわらない広く豊かな人間関係の中でくらすまいのかたちです。

### 「コレクティブハウス」にくらすまで

居住希望者のオリエンテーションに参加して、居住希望会員登録します。

①既存のハウスに居住希望の場合  
コモンミールに参加したり、希望住戸を検討します。

②新しいハウスづくりのプロジェクトに参加の場合  
空間設計や暮らし運営のワークショップに、居住希望者が参加してハウスづくりを進めます。

### 入居

居住者全員で協力して暮らしを運営をし、お互いに役割を担い合っています。

コレクティブハウス聖蹟  
(ワンルーム〜2LDK 20戸+コモンスペース)  
★一緒にくらす仲間を募集中!★  
問い合わせ: 03-3315-0255  
(NPO法人コレクティブハウジング社)  
<http://www.chc.or.jp/>

ングに集まります。会話しながらの食事は「孤食」とは無縁。この食事は単に「食べる」ことではなく、「一緒に食卓を囲む」ことで顔の見える安心感や思いやりを育てているように思えました。5月には近くの公園で開催されたハンドメイド雑貨市「seiseki sun marche」に出店。ここでの出会いから地域との新たなつながりも生まれ、ご近所との関わりも少しずつ育っているそうです。

現在、「コレクティブハウス聖蹟」では、一緒にくらしをつくる仲間を募集中。「人とふれあってくらすよさがここにはある。見学会も開催しているので、このくらしのよさをぜひ体験してほしい」と住民のみなさんは声をそろえていました。

## 「コレクティブハウス聖蹟」はこんなところ

～住民の方にお話をききました～

### Yさん

(39歳女性/ファミリー)

自分たちの暮らしを自分たちでつくっていく様子を見ることは、子どもにとって「大きな社会に出る前の小さな一歩」だと思います。子どもたちが多くの人の目で見守られている安心感と、多世代の人とかかわる中で「学び」がここにはあります。



### Iさん

(55歳女性/単身)

ひとりになった時、孤立せずに地域とつながることが難しい今、コレクティブハウスのくらしにはほどよい距離感がつながっている安心感がありますね。年を重ねていく中で、こういうくらしがどこまでできるか日々考えています。

### Sさん

(42歳女性/ファミリー)

ハウス訪問やコモンミールに参加し、生き生きして楽しそうと感じて入居しました。コモンミールもありがたい、子どもが他の子どもたちと触れ合えたり、住民の方に預かってもらえたりと、くらしてみないとわからない安心感がここにはありますね。夫も土日、いろいろなことに参加して楽しんでいますよ。

### Oさん

(30歳女性/単身)

ここでのくらしは、人と触れ合う時間があるので、外でイヤなことがあっても、モードの切り替えができて気分が軽くなりますね。時間的には忙しいことがあっても、自分たちのことだから、楽しみながらがんばろうと思える。そして、人やまちとのつながりが感じられ、地に足がついた、ほどよい距離感のくらしができるのがいいですね。

## たのしいイベントも



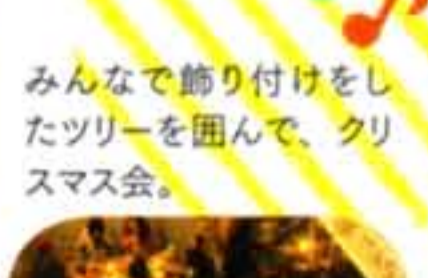
花材のレクチャーから始まる生け花教室。



ウッドデッキでバーベキューパーティー。



「seiseki sun marche」出店のため、総出でクッキーづくり。



みんなで飾り付けをしたツリーを囲んで、クリスマス会。



当番の個性が光るコモンミール。今夜のメニューは、手羽先のオープン焼き、長芋とひじきの蒸し物、トマトのサラダじゃこドレッシング、赤だしのお味噌汁。



みんなのおかずを並べて盛り付けすると、広いカウンターもこんなにいっぱい。



コモンミールの支払いはチケットで。

コモンミールの日。19時頃には自然と集まってきて、みんなで食卓を囲むと会話も弾みます。ちゃんと取り分けておいてくれるので、帰宅が遅くても安心。

「すまう」きっかけ  
「コレクティブハウス聖蹟」は、平成19年(2007)6月から居住希望者がワークショップを積み重ね、平成21年4月にオープン。20戸の居住スペースとコモンキッチン(※)、コモンダイニング、屋上菜園などの共有スペースを持つ2階建ての住居です。

現在、こちらにくらすのは、子育て家族5世帯、カップル2世帯、シングル9世帯、0歳〜70代までの30名。ここに「すまう」きっかけは、自分たちのくらしを自分たちの手でつくれること、いろいろな世代の人と触れ合う環境で子育てができること、震災を機に隣の人も知らない不安定な基盤に気付いたこと、周りとながった生活がここにはあることなど、人によってさまざまです。共通している

### うまれるつながり

コレクティブハウスのくらしは、居住者組合により自主運営・管理され、ルールや日常生活の問題は月1回の定例会やワークショップで話し合われます。意見が必ず一つにまとまるわけではないけれど、お互いの意見を聞き、尊重しあい、すむ人が変わればルールも変えていく、こうした柔軟性から、相手を思いやる気持ちや、つながっている安心感が生まれてくるのでしょうか。

居住者が参加できる日に担当し、共同で夕食をつくるコモンミール。その日は、夕食の時間になると自然にコモンダイニ



# つながり

# りあってすむ

すまいをシェアして人とつながったり、すむまちとつながったりしながら、くらしを育んでいる人が多摩地域で少しずつ増えています。人に、まちにオープンになってやわらかく関わりながらすむ。その豊かさとは何なのでしょう?

### 市民リポート

担当/瀬崎節子、八巻恵美子、横山哲也

### 縁を感じながらくらす

## コレクティブハウス聖蹟

取材・文/八巻恵美子

のは、このすまい方に、現在では希薄になってしまった人と人とのゆるやかなつながりと、ほどよい距離感を見つけたことだと思えます。